

豊福の歴史

豊福小の校歌の昔と今

※明治・大正時代と現在

※松橋町史」から、豊福小の校歌の今と昔を調べてみました。

旧校歌 (明治・大正時代)

- 一 昔景行天皇の 御幸き給いし跡のみか
近くは明治の三十五 霜月半ばの十二日
- 二 みこしを留め給いてし 御野立ちの野にいと近く
我が学舎は立てられて うぶすな神の守りあり
- 三 北窓おせば久方の 空にそびゆる木原山
西ははるかに不知火の 海原遠く水清し
- 四 清きをおのが心とし 学びのわざにいそしまん
時計の針のたゆみなく めくるが如く時の間も
- 五 浅川の水かかるとも 心をねりて身を鍛え
御国を守る身となれよ 御国を守る身となれよ

明治大正時代の校歌には、日本書紀の内容が入っています。また、木原山や不知火、浅川などが出てきます。道徳的な考え方など、時代を反映した校歌と言えるかと思っています。

現在の校歌 山口白陽作詞 瀧本泰三作曲

- 一 あしたに仰ぐ宮の森 タベにのぞむ城の丘
日毎にふるる山川に 古い歴史がよみがえる
豊福校よ我がともよ
- 二 かがやきわたる青空に おらさき匂う矢山岳
希望におどる歌声は 雲にとどけとわきあがる
豊福校よ我がともよ
- 三 豊かな福を名に負うて あかるくのびる平和郷
楽しくはげむ子らもみな 強くすなおに育ちゆく
豊福校よわがともよ